

第280回 番組審議会

1. 日 時 平成31年 3月12日 (火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲東の間」
3. 委 員 委員総数 8名
出席委員数 7名 (欠席委員数 1名)

○ 出席委員 (敬称略)

鈴木 厚人 (委員長)

砂子田 智 (副委員長)

—以下50音順—

石田 征広

菅原 正二

高橋 博昭

八木橋 伸之

役重 真喜子

○ 会社側出席者 (8名)

藤澤 利憲 (代表取締役社長)

小原 忍 (取締役副社長)

藤原 銀司 (常務取締役)

齋藤 秋水 (常務取締役)

工藤 浩 (取締役)

高嶋 昇 (取締役営業編成局長兼東京支社長)

菊地 十郎 (制作部長)

細田 啓信 (報道部)

○ 事務局 佐々木 久仁子

4. 議 題 『山・海・漬

平成の奇祭 おらが村の永岡蘇民祭』

平成31年 2月16日(土) 18:30~19:00放送

5. 議事概要

今回は、2月16日土曜日午後6時30分から放送した『山・海・漬 平成の奇祭 おらが村の永岡蘇民祭』を審議しました。議事の概要は、以下の通りです。

●岩手めんこいテレビ報道制作局制作部部長菊地十郎からの説明

・『山・海・漬』は、1993年10月に月曜日午後7時30分からスタジオ生放送番組としてスタートし、その3年後に土曜日午後6時30分へ移動した。この番組は、岩手の文化、風土、人、食などを幅広く紹介し、そして継承していこうという趣旨で始まった。

・今年9月に放送1000回を迎える。

・番組の平均視聴率は、12.1%。最高視聴率は2014年11月に放送した「盛岡隠れ家めぐり」の21.8%、今回の「永岡蘇民祭」は、やや低めの9.5%だった。

・これまで、必ずしも順調にきたわけではなく時代背景や裏局の編成等で苦戦した時期もあった。グルメ、食を取り上げると数字が良いので、どうしても回数が増えていたが、企画が硬直化してきたのではないかという反省点もあり、今一度、原点に立ち返り、岩手の文化、風土、地域の良いところをどんどん取り上げていこうと制作した。

●岩手めんこいテレビ報道部 細田啓信アナウンサーからの説明

・入社1年目で、『山・海・漬』には今回が3回目の出演。岩手県出身で、幼い頃から見ていたなじみのある番組だったので、出演できたことは、アナウンサー冥利に尽きると思った。

・元氣なお祭りなのに自分の元氣が足りなかったことと県内出身というカラーを出せなかったことが反省点。

・岩手県に蘇民祭が11もあることを今回出演が決まってから知った。同じように県内の方で、知らなかった方も多いと思うし、沿道の方から水をかけてもらう永岡蘇民祭の特徴なども紹介し、関心をもってもらえたのではないかと思っている。

●出席した委員からの意見

・インタビューで、ガタガタ震えているところを見て、臨場感があって良かったと思った。

・岩手県内に蘇民祭が11もあることを知らなかったし、由来もわかりやすく説明していて良く分かったが、取主になるためには蘇民袋のどこをつかんでいればいいのか判定基準がわからなかった。

・細田さんの頑張りに敬意を表したい。

・『山・海・漬』が始まった頃は、すぐにネタ切れになるんじゃないかという話もあった。こんなに続くとは思わなかった。

・昼のお祭りなので子どもたちもたくさんいて、黒石寺とは違った良さがあり、好感を持って見た。

・永岡蘇民祭は新しいお祭りだが、地域おこしの原点があった。

・素材が良かった。平成元年にスタートしたお祭りを平成が終わるという時に良く取り上げたと関心した。

・大きな災害から立ち上がっていく時、人と人が肌をふれあって、心を一つにしていくことや、地域への誇りといったものが核になっていかないと被災地は立ち上がっていかないだろうと、番組を見て改めて感じた。

・岩手県の地図で金ヶ崎町の位置は出ていたが、永岡地区をクローズアップするときは地理的な範囲や歴史的なことについて、地元の局としては、地域への敬意ということでその辺の情報も出してほしかった。

・小野寺瑞穂さんの柔らかい語り口も『山・海・漬』のポイントだと感じている。

・今回のテーマは地味だけれども筋が通った硬派としてよいテーマだった。

・今まで通り地域に密着して、視聴率にあまりとらわれない、世評に流され過ぎない筋の通ったテーマで続けてもらいたい。

・元気がなかったのか、取主のキャラクターに負けたのか、見ていて平面な感じがした。もう少し、アナウンサーの素の部分が見えるシーンがあっても良かったと思う。

・見ている人に何を伝えたかったのか、意図が分からなかった。

・合併して、既に永岡村はなくなっているのに「村」を表に出して、みんながまとまっていったのは、おもしろいと思った。その辺のことを地元の人がどう受け止めたのか知りたかった。

・地域を盛り上げるとするならば、この祭りに参加する方法なども伝えると全国から人が集まってくるなど、地域の活性化につながるのではないかな。

●委員からの質問、意見に対する会社側からの回答

・取主の判定は、判定委員の厳正な判断に寄って判断されると聞いている。

・蘇民祭を取り上げようという話になり、いろいろ調べていく中で、ちょうど平成が終わる年に、平成元年に始まった「永岡蘇民祭」を知り、おもしろくできるのではないかなと思って、取り上げることにした。

・東日本大震災があり、一時期お祭りが下火になったこともあったが、地域を盛り上げていくためには、お祭りは必要だと思った。地域のことを掘り下げて、テレビ画面を通じて県民に見て頂きたいという気持ちで制作した。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

※平成31年3月13日（水） 産経新聞 東北版

※平成31年3月23日（土）午前4時12分から4時15分まで「めんこいテレビ番審リポート」として放送

※据え置き書類を作成し、本社受付、各支社に備置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

8. その他の参考事項

特になし

次回は、平成31年4月9日(火)12時より11階「マーキュリー」にて開催予定です。